

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2017		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育教養科目		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	共通教育教養科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 気象学入門 (英文名) Introduction to meteorology				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) なし (英文名) なし				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 佐々 浩司 (ローマ字) SASSA Koji				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区 分	選択	
14. 対象学生	誰でも可		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	1年生以上	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	気象と波の災害	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	不明
	連携大学 学生向け	不明		連携大学 学生向け	不明
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	気象、天気予報、気象災害 meteorology, weather report, meteorological disaster				
21. 授業概要	気象に関わる様々な現象は大気の運動や状態変化に伴って発生する。地球上の大気の動きを演習実 験などにより説明するとともに、雨雲のできる様子、気象災害の起こる原因や、天気図の見方などに ついて解説する。				☐
22. 授業の目的及び 主旨／授業科目の主 題	天気の移り変わりにおけるおおまかなメカニズムを理解するとともに気象学を学ぶ基礎的知識を身に つける。さらに天気予報で示される天気図や様々なデータからどのようなことが把握できるのか理解する。				☐
23. 授業の到達目標 ／学修課題	日本における天気の大まかな動きを理解し、天気予報やレーダーデータなどの気象情報を的確に把握 できる。				☐

24. ディプロマ・ポリシー (卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)			
25. カリキュラムマップ (授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)			
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	1. 気象の様々なすがた 2. 天気と気候のとらえかた 3. 気象の時間的空間的な大きさ 4. 大気の気温分布と熱のやりとり 5. 地球規模の流れ 6. 低気圧と高気圧 7. 熱帯低気圧: 台風 8. 風の吹き方、局地的な風 9. 天気図をみてみよう 10. 雲のできかたと雨 11. 雲の姿と大気の流れ 12. 豪雨 13. 突風 14. 地球温暖化とは 15. 気候変動と気象災害		☐
27. 授業時間外学習にかかわる情報	毎回の講義内容のまとめを行う		☐
28. 成績評価の方法と基準	毎回の講義内容をまとめたレポート15回分 40点 5回分の内容の理解度を調べるレポート3回分 60点 合計100点で評価する。 ただし、毎回の講義内容をまとめたレポートの提出が10回未満のものについては、5回分の内容の理解度を調べるレポートの提出回数に関わりなく、最終的な成績評価を0～59点で行う。		☐
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし	☐
	連携大学学生向け	なし	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講の条件: 気象に興味があること。 受講人数制限: なし		☐
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	日頃から天気予報を見る習慣や空を見る習慣をつけておくと思います。		☐

32. 教科書(購入の必要のある図書)	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="355 172 504 369" rowspan="4">教科書1</td> <td data-bbox="504 172 663 219">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="663 172 1399 219"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 219 663 266">I S B N</td> <td data-bbox="663 219 940 266"></td> <td data-bbox="940 219 1093 266">著者名</td> <td data-bbox="1093 219 1399 266"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 266 663 313">出版社</td> <td data-bbox="663 266 940 313"></td> <td data-bbox="940 266 1093 313">出版年</td> <td data-bbox="1093 266 1399 313"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 313 663 369">金額</td> <td data-bbox="663 313 940 369"></td> <td data-bbox="940 313 1093 369">備考</td> <td data-bbox="1093 313 1399 369"></td> </tr> </table>				教科書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐																																		
教科書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
33. 教科書・参考書に関する補足情報	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="355 405 504 600" rowspan="4">参考書1</td> <td data-bbox="504 405 663 445">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="663 405 1399 445"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 445 663 492">I S B N</td> <td data-bbox="663 445 940 492"></td> <td data-bbox="940 445 1093 492">著者名</td> <td data-bbox="1093 445 1399 492"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 492 663 539">出版社</td> <td data-bbox="663 492 940 539"></td> <td data-bbox="940 492 1093 539">出版年</td> <td data-bbox="1093 492 1399 539"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 539 663 600">金額</td> <td data-bbox="663 539 940 600"></td> <td data-bbox="940 539 1093 600">備考</td> <td data-bbox="1093 539 1399 600"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="355 600 504 795" rowspan="4">参考書2</td> <td data-bbox="504 600 663 640">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="663 600 1399 640"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 640 663 687">I S B N</td> <td data-bbox="663 640 940 687"></td> <td data-bbox="940 640 1093 687">著者名</td> <td data-bbox="1093 640 1399 687"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 687 663 734">出版社</td> <td data-bbox="663 687 940 734"></td> <td data-bbox="940 687 1093 734">出版年</td> <td data-bbox="1093 687 1399 734"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 734 663 795">金額</td> <td data-bbox="663 734 940 795"></td> <td data-bbox="940 734 1093 795">備考</td> <td data-bbox="1093 734 1399 795"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="355 795 504 996" rowspan="4">参考書3</td> <td data-bbox="504 795 663 835">書名</td> <td colspan="3" data-bbox="663 795 1399 835"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 835 663 882">I S B N</td> <td data-bbox="663 835 940 882"></td> <td data-bbox="940 835 1093 882">著者名</td> <td data-bbox="1093 835 1399 882"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 882 663 929">出版社</td> <td data-bbox="663 882 940 929"></td> <td data-bbox="940 882 1093 929">出版年</td> <td data-bbox="1093 882 1399 929"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="504 929 663 996">金額</td> <td data-bbox="663 929 940 996"></td> <td data-bbox="940 929 1093 996">備考</td> <td data-bbox="1093 929 1399 996"></td> </tr> </table>				参考書1	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書2	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		参考書3	書名				I S B N		著者名		出版社		出版年		金額		備考		☐
参考書1	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書2	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
参考書3	書名																																																							
	I S B N		著者名																																																					
	出版社		出版年																																																					
	金額		備考																																																					
34. Webテキスト(URL・説明)	Moodle上に掲載 大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				☐																																																			
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	☐																																																				
37. 教員相互参観授業公開日程					☐																																																			
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	10時～12時、13時半～17時のうち、講義時間以外(要事前確認)			☐																																																			
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)			☐																																																			
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	研究室(理学部1号館108室) sassa@kochi-u.ac.jp			☐																																																			
	連携大学 学生向け	sassa@kochi-u.ac.jp			☐																																																			
40. その他／備考	eK4科目「流れと波の災害」は二重履修科目				☐																																																			

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2017		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等／区分等	共通教育教養科目自然分野		4. 授業形態／授業種別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科目分野／科目区分／区分等	共通教育教養科目自然分野		6. DPコード／分野コード／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文名／英文併記	(日本語名) 有機化学概論 (英文名) Outline of Organic Chemistry				
8. 副題(日本語・英語)	(日本語名) e-Learningで学ぶ有機化学入門 (英文名) Introduction of Organic Chemistry in e-Learning				
9. 担当教員名(教員ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) AKIRA Tatsukawa				
10. 時間割コード／申請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必修区分／単位区分	選択	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等／標準履修年次	1年生	
16. 曜日・時限	オンデマンド		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	自然分野教養科目	19. 関連科目(関連科目コード番号)	自大学 学生向け	無し
	連携大学 学生向け	無し		連携大学 学生向け	無し
20. 授業のキーワード／英文キーワード(3つ以上5つ以下)	有機化学 Organic Chemistry, 分子構造 Conformation, Configuration of Molecule, 立体化学 Stereo Chemistry				
21. 授業概要	有機化学の教科書を毎回1章, 教科書にそって化合物の名前, 分子の構造, 反応, 酸と塩基, 官能基, 生化学物質と医薬品の順で進めます。まず自分で教科書をよく読んでください。その上で要約文をノートに書いてみましょう。要約文の中から, 具体的で重要な事柄を各パラグラフから1つ選び, 説明文を完成させます。1つの事柄を1文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで3つ(以上)をレポートとして提出します。 レポートを提出したら, 教材を見てください。教材は, 教科書の内容に関する補足とさらに専門的な内容に関する解説が含まれます。 最後に章末問題に解答します。 質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。フォーラムへの書き込みに対して, 積極的にコメントを入れてください。毎回積極的なコメントを書き込む人には参加点を加点します。				

22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	1. 身のまわりの現象について一般論や間違った情報に惑わされることなく、自ら正しい判断ができるために必要な化学の知識を身につける。 2. 論理的思考力, 説明力, 発問力を身につける。 3. 有機化合物の構造が理解できる。	☐
23. 授業の到達目標／学修課題	教科書で扱われている有機化合物の名前が書けるようになる。 教科書で扱われている有機化合物の反応が正しく書き表せるようになる。 教科書で扱われている有機化合物の性質が自分の言葉で説明できる。 教科書で扱われている有機化合物の構造が正しく書き表せるようになる。	☐
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	【授業計画】 第1週 第1章有機化学をなぜ学ぶのか 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 4月第4週） 第2週 第2章いろいろな有機化合物とその名前 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 4月第4週） 第3週 第3章有機化合物(分子)のなりたち 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 5月第1週） 第4週 第4章有機化合物の成り立ちと基本骨格 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 5月第1週） 第5週 第5章有機化合物の立体構造 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 5月第2週） 第6週 第6章化学反応 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 5月第3週） 第7週 第7章酸と塩基 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 5月第4週） 第8週 第8章アルコールおよびエーテル 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 6月第1週） 第9週 第9章アルデヒドおよびケトンの反応 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 6月第2週） 第10週 第10章カルボン酸とその誘導体 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 6月第3週） 第11週 第11章アミン 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 6月第4週） 第12週 第12章タンパク質と糖質 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 7月第1週） 第13週 第13章脂質と核酸 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 7月第2週） 第14週 第14章医薬品の化学構造 準備学習, レポート提出, 資料確認, 章末テスト（締切 7月第3週） 第15週 期末試験（締切 7月第4週） * 締切は学修の目安ですが, 高知大生は厳守して下さい。履修登録の関係で遅れて履修を開始する人は, 少し遅れてもかまいませんが, 第7週までには追いついて下さい。期末試験の締切後の提出物や受験は評価の対象になりませんので, 注意して下さい。	☐
27. 授業時間外学習にかかわる情報	教科書をよく読み, レポートを提出してから教材に取り組むこと。詳細はコースのトップにある「受講の仕方」を見ること。	☐

28. 成績評価の方法と基準	レポートの提出状況と内容:30% ＊レポートの評価基準を「受講の仕方」に記載しています。必ず目を通して下さい。 コメントを確認し、再提出の場合は修正版を提出すること。 毎回の章末テスト:50% 期末試験:20% ＊すべてオンデマンドで行いますので、すべての課題を終えていることが成績評価の条件です。締め切りを少し遅れても必ずレポートを提出し、章末試験に解答してください。				☐	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	無し			☐	
	連携大学学生向け	無し				
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学10名・愛媛大学10名				☐	
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	各回の章末テストについて解答期限を設けています。これを目安として早めの準備、事前のレポート提出を怠らないでください。レポート提出しないで章末試験だけ受けても単位認定はしません。日頃からセルフマネージメントを心がけましょう。				☐	
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	「はじめて学ぶ有機化学」		☐	
I S B N		9784759818079	著者名	高橋 秀依 ほか		
出版社		化学同人	出版年	2015		
金額		2,200	備考			
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			☐	
		I S B N		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		I S B N		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		I S B N		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	高知大学Moodle https://moodle.cc.kochi-u.ac.jp/ 大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				☐	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし	☐		

37. 教員相互参観授業公開日程			☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	設定無し	☐
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ) 設定無し	☐
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	Moodleのコース上にフォーラムを設けています。質問等はそこに記入してください。	☐
	連携大学 学生向け	Moodleのコース上にフォーラムを設けています。質問等はそこに記入してください。	☐
40. その他／備考	無し		☐

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2017		2. 開講学期	第1学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	農林海洋科学部		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	専門教育)専門科目		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) 海洋基礎生態学 (英文名) Fundamental Marine Ecology				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) 海洋生態系の低次生産・消費・分解と物質循環について学ぶ (英文名) Marine Ecosystems and Material Cycling				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 深見 公雄 (ローマ字) FUKAMI Kimio				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	特に指定なし		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	2	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	黒潮圏科学の魅力、生 態系への人為的インパ クト、海洋微生物学	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	黒潮圏科学の魅力 (04012)、生態系への人為 的インパクト(04021)、海洋 微生物学(80188)
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	海洋生態系, 物質循環, 低次生産, 微生物生態, 海洋環境保全 Marine Ecosystem, Material Cycling, Lower Trophic Level, Microbial Ecology, Marine Environment Conservation				
21. 授業概要	海洋生態系における有機物の低次生産・消費・分解・無機化のメカニズムを解説したあと、このような海 洋の物質循環に影響を与える環境要因はなにか、健全な海洋環境とはどんなものか、また海洋生態系 のバランスが崩れるとどのような影響が開始するのか、それを防ぐにはどうすればよいかといった環境 保全について考える。 本授業は平成28年度からe-learning形式で実施しており、履修希望者は、あらかじめ履修登録のうえ、 e-learningに必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはMoodle(LMS)システムを通して配信 するので、Moodleの使い方等について十分理解しておくこと。受講に関する様々な指示や注意点等は LMS上に掲載するので、必ず目を通しておくこと。その上で、講義の聴講は各自の時間スケジュールに				



	合わせて、自由に「いつでも、どこでも、何度でも」講義を聴くことが可能である。全講義内容を3ブロックに分割し、第1ブロックは4月、第2ブロックは5月、第3ブロックは6月に、それぞれ配信開始する予定である。 受講者は、定められた期限までに全てのモジュール(コンテンツ)を聴講し、小テスト等に解答することが求められる。詳細については、LMS上で連絡をする。	
22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	1. 海洋生態系における有機物生産・消費・分解・無機化のメカニズムを理解する。 2. このような海洋の物質循環に影響を与える環境要因はなにかを知る。 3. これらの知識を元に、健全な海洋環境とはどんなものか、また海洋生態系のバランスが崩れるとどのような影響が出始めるのか、それを防ぐにはどうすればよいかといった環境保全について自分なりの考えを構築する。	☒
23. 授業の到達目標／学修課題	○海洋生態系の概要を理解し、海洋環境で起こっている生物学的・化学的現象に関する基礎知識を持つ。 ○今日の海洋および地球環境問題を認識する。 ○今後の我が国および世界の海洋環境のあり方およびその保全に関連する新聞記事やテレビ番組等に対して理解でき、自分なりの考え方を持てる。	☒
24. ディプロマ・ポリシー(卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目)		
25. カリキュラムマップ(授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ)		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	【授業スケジュール】 第1回 0. 受講のガイダンス・・・授業の進め方・構成. 受講に当たっての留意事項 1. 「海洋基礎生態学」で何を学ぶのか？, 参考図書 2. 物質循環の概要 (1) 有機物の生産と分解 第2回 2. 物質循環の概要(続き) (2) 有機物の存在形態 第3回 3. 有機物の生産 (1) 植物プランクトン (2) 無機栄養塩 第4回 3. 有機物の生産(続き) (3) クロロフィルaと現存量 (4) 一次生産量と生産力 第5回 3. 有機物の生産(続き) (4) 一次生産量と生産力(続き) 第6回 3. 有機物の生産(続き) (5) 新生産と再生生産 (6) 測定法 (7) 支配要因 第7回 3. 有機物の生産(続き) (8) 熱水鉱床 4. 捕食 (1) 動物プランクトン	☒

	第8回 4. 捕食(続き) (2)捕食食物連鎖 (3)従属栄養性微小鞭毛虫 (4)微生物食物連鎖 第9回 5. 有機物の分解 (1)従属栄養細菌 (2)現存量 (3)活性と分解速度 (4)生体成分の分解 第10回 6. 海水中に存在する有機物 (1)溶存態有機物(DOM) 1) DOMの生産 2) 化学組成 3) 生態学的意義 第11回 6. 海水中に存在する有機物(続き) (2)粒状有機物(POM) 1) POMの生産 2) 分布 3)化学組成 4)生体遺骸(デトライタス) 第12回 7. 沈降粒子による物質の鉛直輸送 (1)糞粒 (2)深海への有機物供給 8. 海底堆積物 第13回 9. 窒素(N)の循環 (1)アンモニア生成 (2)硝化作用 (3)硝酸還元・脱窒 (4)窒素固定 (5)窒素無機栄養塩の取り込み 第14回 10. リン(P)の循環 第15回 11. 硫黄(S)の循環 (1)硫黄化合物の分解 (2)硫酸塩還元 (3)硫黄化合物の酸化とイオウ細菌 第16回 期末試験		
27. 授業時間外学習にかかわる情報	日ごろから、授業を通して学んだことと環境や生態系に関するテレビ番組や新聞記事等と結びつけ、授業内容を思い出す習慣を身につけることを求める。	☒	
28. 成績評価の方法と基準	15回のモジュール(コンテンツ)のうち最低10回のモジュールを聴講し、各回の小テストに10回以上解答することが期末試験受験資格である。期末試験の成績(50点満点①)と毎講義終了後に実施する小テスト等の成績(50点に換算②)により判定し、①②それぞれが30点以上の場合を合格とする。	☒	
29. 再試験の有無	自大学学生向け	原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと	☒
	連携大学学生向け	原則として実施しないが、特別の事情がある場合には相談のこと	
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:なし		☒
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	【履修希望学生に求めるもの】 高知大学の旧農学部海洋生物生産学コース・自然環境学コース、また改組後の農林海洋科学部海洋資源科学科の学生にとっては必修科目であるが、両コース以外や他大学の学生であっても、海の生態学や物質循環、あるいは海洋環境に興味のある学生は受講することが望ましい。		☒

32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名				☐
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書2	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
	参考書3	書名				
		ISBN		著者名		
		出版社		出版年		
		金額		備考		
34. Webテキスト(URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ http://chipla-e.itc.kagawa-u.ac.jp/				☐	
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受講が必要となる資格等／資格取得該当科目	なし		☐	
37. 教員相互参観授業公開日程					☐	
38. オフィスアワー	自大学 学生向け	火曜日の5時限(16:30-18:00)とする。ただしあらかじめ必ず連絡すること。			☐	
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)			☐	
39. 連絡先／学生相談場所／学生開示用メール	自大学 学生向け	物部キャンパス4号棟西棟1F南側			☐	
	連携大学 学生向け	まずは教員のメールアドレス(fukami@kochi-u.ac.jp)へ相談内容等を送付のこと			☐	
40. その他／備考	【備考】 海洋環境はまだ知られていない事が多々ある世界です。思いもよらないことが起こっている海洋生態系の興味深い側面、そしてその中の物質循環で大活躍する微生物の生態と役割について一緒に勉強してみませんか。 なお本授業は平成28年度からe-learning形式で実施しており、履修希望者は、あらかじめ履修登録のうえ、e-learningに必要な手続きをしておく必要がある。講義コンテンツはMoodle(LMS)システムを通して				☒	

	配信するので、Moodleの使い方等について十分理解しておくこと。受講に関する様々な指示や注意点等はLMS上に掲載するので、必ず目を通しておくこと。その上で、講義の聴講は各自の時間スケジュールに合わせて、自由に「いつでも、どこでも、何度でも」講義を聴くことが可能である。全講義内容を3ブロックに分割し、第1ブロックは4月、第2ブロックは5月、第3ブロックは6月に、それぞれ配信開始する予定である。	
--	---	--

シラバス情報収集フォーマット(2016年6月改訂)

【記入要領】

1. 下記の**緑色部分**をご記入ください。(記入内容が無い場合は空白とせず無しと記入)
2. **グレー部分**は大学ごとに異なるため必要に応じて個別に対応をお願いする項目です。
3. **白色部分**はあらかじめ想定内容を記入しています。
4. 教員から学生へ必ず伝えてほしい内容についてはチェックボックスへチェック☑を入れて下さい。(各大学のシラバスに必ず記載されます)

1. 開講年度	2017		2. 開講学期	第2学期	
3. 開講学部・学科等 ／区分等	共通教育教養科目自然分野		4. 授業形態／授業種 別	eラーニング	
5. 授業科目区分／科 目分野／科目区分／ 区分等	教養科目自然分野		6. DPコード／分野コー ド／科目ナンバリング		
7. 科目名／科目英文 名／英文併記	(日本語名) サイエンスリテラシーの化学 (英文名) CSL:Chemistry of Science Literacy				
8. 副題(日本語・英 語)	(日本語名) すべての大学一年生のための化学入門 (英文名) Introduction of Chemistry				
9. 担当教員名(教員 ローマ字表記)	(日本語) 立川 明 (ローマ字) AKIRA Tatsukawa				
10. 時間割コード／申 請コード／授業コード			11. 昼夜		
12. 単位数	2		13. 選必区分／単位区 分	なし	
14. 対象学生	全学部全学科		15. 対象年次／区分等 ／標準履修年次	なし	
16. 曜日・時限	なし		17. 講義室		
18. 履修推奨科目	自大学 学生向け	なし	19. 関連科目(関連科 目コード番号)	自大学 学生向け	なし
	連携大学 学生向け	なし		連携大学 学生向け	なし
20. 授業のキーワード ／英文キーワード (3 つ以上5つ以下)	化学 Chemistry, 無機化学 Inorganic Chemistry, 有機化学 Organic Chemistry				
21. 授業概要	教科書に沿って、酸塩基、衣服、洗濯、プラスチック、料理、コロイド、医薬品、石油、セラミックス、電池、家電、三態、環境の順に進めます。 まず自分で教科書をよく読んでください。その上で説明文をノートに書いてみましょう。説明文の中から、具体的で重要な事柄を各パラグラフから1つ選び、説明文を完成させます。1つの事柄を1文で具体的かつ簡潔に表現してください。異なるパラグラフから1文ずつ特に重要なものを選んで3つ(以上)をレポートとして提出します。 レポートを提出したら、PDF教材を見てください。教材にはいろいろな質問や問いかけがあります。力試ししてください。 最後に章末問題に解答します。 質問がある場合はフォーラムに書き込んでください。				

22. 授業の目的及び主旨／授業科目の主題	・この授業に主体的に取り組むことにより、あなたは身の回りに存在する化学物質の知識を得ることができます。 ・化学の知識を得ることにより、持続可能で健康的な生活を送るために必要な正しい選択ができるようになります。	☐
23. 授業の到達目標／学修課題	・みのまわりのものを化学物質としてとらえることができる ・みのまわりに起こる事柄を化学変化としてとらえることができる ・教科書で扱われている化学物質の構造が正しくかける ・教科書で扱われている化学反応式が正しくかける ・教科書で扱われている事柄をわかりやすく伝えることができる	☐
24. ディプロマ・ポリシー（卒業時の到達目標・共通教育の理念・教育方針に関わる項目）		
25. カリキュラムマップ（授業科目の主題・授業科目の到達目標とカリキュラムマップ）		
26. 授業スケジュール／授業計画並びに授業及び学習の方法	【授業計画】 第1週「化学って何だ？」 第2週「真水・お酢・石けん水の違いって？」 第3週「衣服は第二の皮膚」 第4週「環境にやさしい洗濯を」 第5週「もっとも身近でもっとも不思議な物質」 第6週「生活材料今昔物語」 第7週「お料理は化学実験」 第8週「生活を彩る驚異の粒子」 第9週「化学の力で命を守る」 第10週「身の回りには石油製品がいっぱい！」 第11週「現代生活を支えるすぐれモノたち」 第12週「電気パワーが社会を明るくする」 第13週「身の回りの電気製品をカガクする」 第14週「物質は自在に変わる」 第15週「化学は未来をひらく」 第16週 期末試験 【授業及び学習の方法】 全回オンデマンド型（非同期型遠隔講義）で行われます。教科書を使ってよく予習をし、レポートを提出した後、インターネットで配信されるeラーニング教材を大学や自宅などで視聴し、指定された期限までに章末試験に解答する順序で学習する。 詳細については、コースのトップに記載している「受講の仕方」を参照すること。	☐

27. 授業時間外学習にかかわる情報	教科書をよく読み、レポートを提出してから教材に取り組むこと。詳細はコースのトップに記載している「受講の仕方」を見ること。				☐
28. 成績評価の方法と基準	毎回のレポート 20% 毎回のレポート追加点 10% 毎回4つ以上の説明文を作成していること。 教科書の異なる部分の説明であること。 (同じ段落の説明文を複数書いてもカウントしない) 章末テスト 50% 各章末問題は10 問有ります。 十分な予習時間をとり、間違えずに短時間で10問正解すること。誤答するたびに減点されます。 期末試験 20% 章末問題と同様の問題です。早く正確に解答すること。誤答するたびに減点されます。				☐
29. 再試験の有無	自大学学生向け	なし			☐
	連携大学学生向け	なし			
30. 受講の条件／先行科目／受講人数制限	受講人数制限:あり 香川大学10名・徳島大学10名・鳴門教育大学10名・高知大学制限なし・愛媛大学10名				☐
31. 受講のルール履修上の注意・担当教員からのメッセージ／履修希望学生に求めるもの	なし				☐
32. 教科書(購入の必要のある図書)	教科書1	書名	「身の回りから見た化学の基礎」		☐
		I S B N	9784759812923	著者名 芝原 寛泰、後藤 景子	
		出版社	化学同人	出版年 2009	
		金額	1,944円	備考	
33. 教科書・参考書に関する補足情報	参考書1	書名			☐
		I S B N		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
	参考書2	書名			
		I S B N		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	
	参考書3	書名			
		I S B N		著者名	
		出版社		出版年	
		金額		備考	

34. Webテキスト (URL・説明)	大学連携e-Learning教育支援センター四国(知プラ)ホームページ http://chipla-e.its.kagawa-u.ac.jp/			☐
35. パソコン必要度	必要	36. 資格等／本科目受 講が必要となる資格等 ／資格取得該当科目	なし	☐
37. 教員相互参観授 業公開日程				☐
38. オフィスアワー	自大学 学生向け			☐
	連携大学 学生向け	(Skype等webで対応できる場合のみ)		☐
39. 連絡先／学生相 談場所／学生開示用 メール	自大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。		☐
	連携大学 学生向け	Moodle内のコミュニケーションツール(フォーラム)を利用すること。		☐
40. その他／備考				☐